

## 松山城三之丸跡 17 次調査 現地説明会資料

平成 26 年 12 月 13 日 (土)

所在地：松山市堀之内 12、13 - 9 の各一部

調査期間：平成 26 年 9 月 24 日 (水) ～同年 12 月 26 日 (金) 予定

調査面積：約 170m<sup>2</sup>

調査主体：公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団 埋蔵文化財センター

## 調査の目的

国史跡「松山城跡」は、松山平野北部の独立丘陵である勝山を中心に構成された近世城郭であります。三之丸跡は、松山城の郭の一つで、現在の堀之内に位置します。松山市では城山公園堀之内地区の整備を進めており、その基礎資料の取得と遺構の保護を目的に、古絵図を参考に平成 13 年度から発掘調査を実施しています。今回の調査の主目的は、三之丸御殿の西に位置する南北方向道路と北御門広場を区画する溝や御殿の北西角や東西方向土塁の南面裾部や杉馬場の土塁を確認することです。

なお、今回の調査は松山市都市整備部公園緑地課の委託を受けた公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団 埋蔵文化財センターが調査を担当しました。

## 三之丸の機能

- ・ 上級武士の居住区
- ・ 藩の役所（三之丸御殿、会所、勘定所、小普請所、御用米蔵など）
- ・ 藩主の屋敷（三之丸御殿）〔貞享 4〔1687〕年以降〕

## 三之丸に関する主なできごと

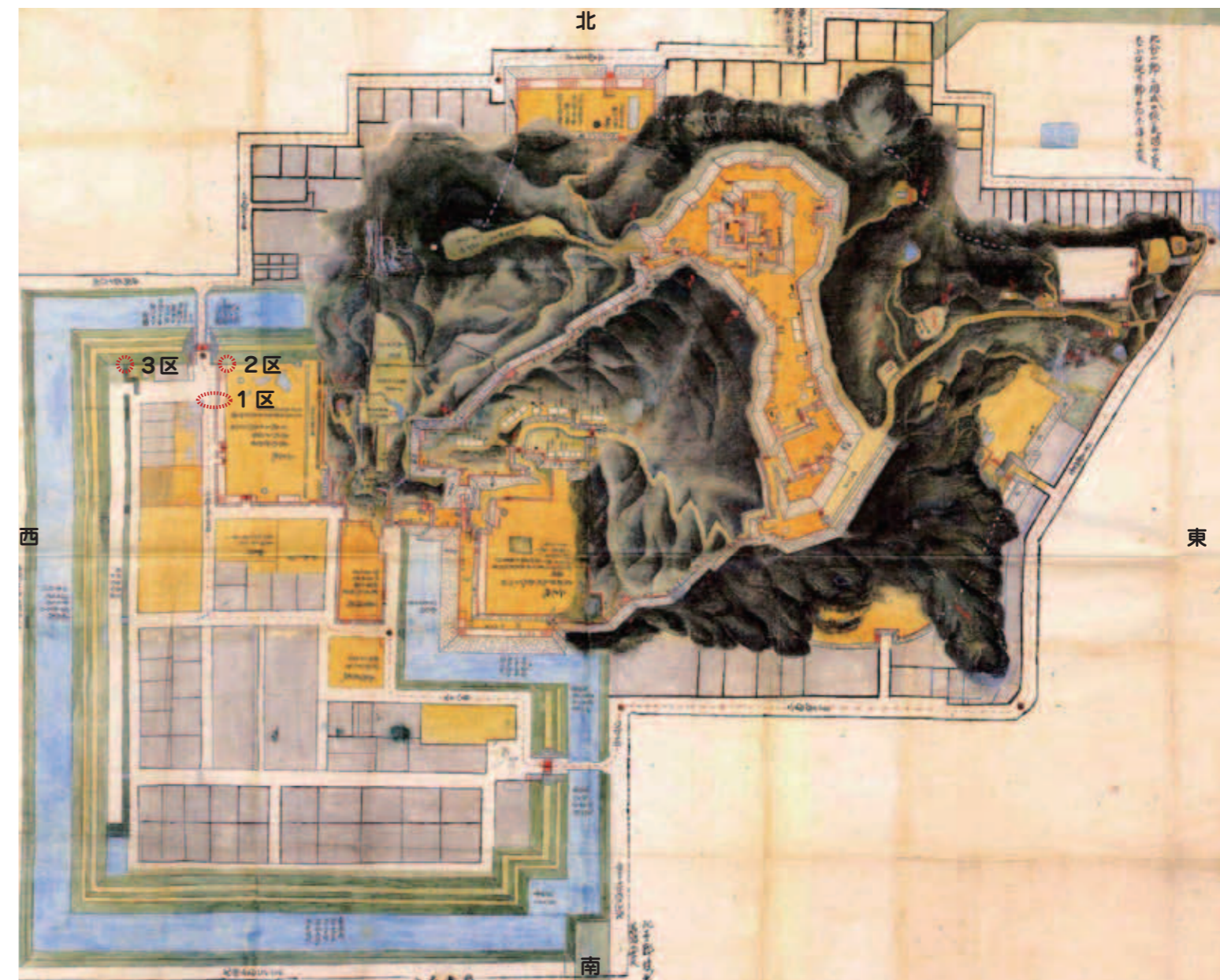
- |                |                        |
|----------------|------------------------|
| 慶長 7 (1602) 年  | 加藤嘉明、三之丸ほか築城に着手。       |
| 寛永 4 (1627) 年  | 蒲生忠知、松山に転封。この頃、築城工事完成。 |
| 12 (1635) 年    | 松平定行、松山に転封。            |
| 16 (1639) 年    | 三之丸に長蔵（御用米蔵）を設置。       |
| 寛文 元 (1661) 年  | 三之丸に杉馬場を設置。            |
| 貞享 4 (1687) 年  | 三之丸に藩邸（御殿）を新設。         |
| 元禄 7 (1694) 年  | 西之丸が完成。                |
| 天保 12 (1841) 年 | 三之丸の小普請所と勘定所を焼失。       |
| 安政 元 (1854) 年  | 大地震により、三之丸ほかで家具倒壊。     |
| 明治 元 (1868) 年  | 土佐藩へ城明渡し。              |
| 2 (1869) 年     | 三之丸藩邸を新政府の松山藩庁として開庁。   |
| 3 (1870) 年     | 三之丸焼失。                 |
| 11 (1878) 年    | 松山兵舎を創設。               |
| 昭和 27 (1952) 年 | 松山城跡、国史跡に指定            |

## 調査の概要

調査区は、三之丸御殿西側の南北方向道路と北御門広場の区画部分を 1 区、御殿の北西角と東西方向土塁の想定ラインを 2 区、北御門広場の北西角を 3 区としました。

調査の結果、1 区において三之丸御殿西側の石垣や南北方向道路と側溝、北御門広場を区画する東西方向の溝を確認しました。2 区では、三之丸御殿西側の側溝と北御門広場の区画や東西方向の土塁の裾部を確認することが出来ました。しかし、御殿の北西角は後世の破壊により確認することができませんでした。3 区では、東西方向土塁裾部の土塁が構築された段階を確認することが出来ました。遺物は、瓦類や陶磁器類が出土しています。

今回の調査において 1 区の北御門広場を区画する東西方向の溝は、南北の側溝からの水を導き西へ流す機能を確認したことは、当時の水路技術の高さを物語るものであり、今後の史跡整備にとっても価値の高いものであると考えられます。



亀郭城秘図（きかくじょうひず）伊予史談会所蔵

文久 4 (1864) 年に藩士野沢隼人により描かれたとされる古絵図。藩の役所は黄色、それ以外の屋敷は灰色で表現されています。





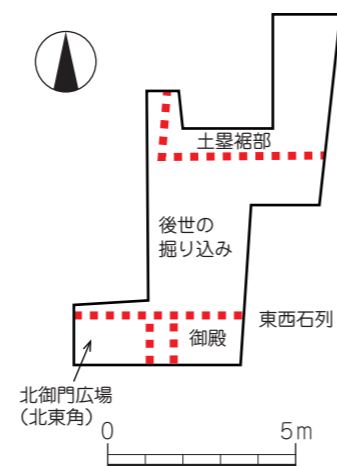
写真4 2区 遺構検出状況 (西より)  
調査区中央部に大きなV字状の掘り込みがあり、御殿の角や土塁の裾が壊されていました。



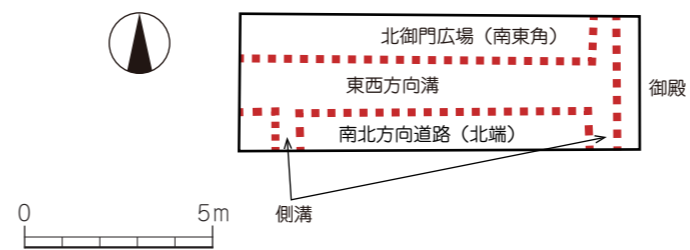
写真5 2区 東西方向に並ぶ石列 (南より)  
御殿西側の側溝は塞がれていました。



写真6 2区 土塁裾部付近 (南西より)  
土塁の裾部に積まれた栗石や角石。



2区 遺構配置状況



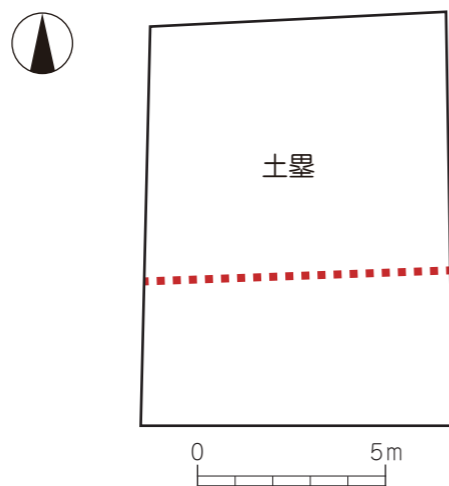
1区 遺構配置状況



『松山城屏風絵』 愛媛県歴史文化博物館所蔵



写真7 3区 土塁裾部付近 (南東より)  
深堀部分では土塁の積み方が確認できました。



3区 遺構配置状況



写真1 1区 遺構検出状況 (西より)  
南北方向道路 (道幅 7.7m) と北御門広場の区画が見つかりました。



写真2 1区 東西方向溝と御殿側溝の連結部分 (南より)  
東西方向溝の端石は、板状の橋を載せるように加工されていました。



写真3 1区 東西方向溝と道路西端付近 (南より)  
東西方向溝 (溝幅 1.3m) はさらに西側へ延びる様相です。